



リリース・ノート

---

# Replication Server<sup>®</sup> Options

## 15.7.1

Linux、Microsoft Windows、および UNIX 版

ドキュメント ID：DC01658-01-1571-02

改訂：2013年2月

Copyright © 2013 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

# 目次

<b>製品の概要</b> .....	<b>1</b>
Replication Server Options .....	1
Replication Server Heterogeneous Edition .....	2
Replication Server Real-Time Loading Edition .....	3
Replication Agent .....	3
製品の互換性 .....	4
ライセンス・オプション .....	5
<b>インストールとアップグレード</b> .....	<b>7</b>
Replication Agent の静的ライセンスのインストール .....	8
RSO および RSHE での ECDA の静的ライセンスの インストール .....	8
RSHE 15.6 から RSHE 15.7.1 へのマイグレーション .....	9
Replication Agent のインストールについての特別な 指示 .....	10
ExpressConnect for Oracle の特別なインストールの 指示 .....	11
特別なアップグレードとダウングレードの指示 .....	11
Replication Agent 15.6 の上にインストールさ れた Replication Agent 15.7.1 のダウング レード .....	11
<b>既知の問題</b> .....	<b>12</b>
ExpressConnect for Oracle に関する既知の問題 .....	13
Red Hat Enterprise Linux 5.0 の既知の問題 .....	14
Replication Agent の既知の問題 .....	14
Replication Agent インストーラの既知の問題 .....	14
あらゆるデータベース・ターゲットに関する 既知の問題 .....	21
Oracle に関しての既知の問題 .....	23

Microsoft SQL Server に関する既知の問題	32
IBM DB2 UDB に関する既知の問題	37
Enterprise Connect Data Access に関する既知の問題	38
<b>マニュアル情報と変更点</b>	<b>39</b>
ECO のマニュアルの変更内容	39
ECDA のマニュアルの変更内容	39
Microsoft SQL Server 2005	40
ExpressConnect for Oracle の配列処理要件	40
必須の Replication Agent パーミッション	40
Oracle オペレーションの LTL オリジンのコミット時刻の細分性	40
DDL 複写に関する Oracle の権限	41
Windows アーカイブの UNC パスおよびオンライン Redo ログのパス	42
<b>追加の説明や情報の入手</b>	<b>43</b>
サポート・センタ	43
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード	44
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認	44
MySybase プロファイルの作成	45
アクセシビリティ機能	45

## 製品の概要

Sybase® Replication Server® Options は Replication Server とは別に購入するか、Replication Server Heterogeneous Edition (RSHE) または Replication Server Real-Time Loading Edition (RTLLE) の一部として購入できます。

### Replication Server Options

---

Replication Server とともに Replication Server Options を使用すると、分散化された異機種システム間で双方向複写を行うことができ、さまざまな業務タスクや意思決定支援タスクが可能になります。オプションを取得するには、Replication Server が必要です。

Replication Server Options は、Replication Agent™ 15.7.1、Enterprise Connect™ Data Access (ECDA) 15.0、ExpressConnect 15.7.1 for Oracle と同じプラットフォーム/オペレーティング・システム構成で動作します。具体的なハードウェア要件とソフトウェア要件については、『Enterprise Connect Data Access Release Bulletin』、『ExpressConnect for Oracle Installation and Configuration Guide』、および『Replication Agent インストール・ガイド』を参照してください。

Replication Server Options に関する一般的な情報については、『Replication Server Heterogeneous Replication Guide』を参照してください。

#### このリリース・ノートについて

Replication Server Options は、Oracle、Microsoft SQL Server、および IBM DB2 Universal Database (UDB) で使用できます。各オプションには、指定のデータ・ソース内のデータのみアクセスするためのライセンスが必要です。

- Replication Server Option for Oracle の構成は次のとおりです。
  - Express Connect for Oracle – Oracle のライセンス許可
  - Replication Agent – Oracle のライセンス許可
- Replication Server Option for Microsoft SQL Server の構成は次のとおりです。
  - ECDA Option for ODBC – ODBC のライセンス許可
  - Replication Agent – Microsoft SQL Server のライセンス許可
- Replication Server Option for IBM DB2 UDB の構成は次のとおりです。
  - ECDA Option for ODBC – ODBC のライセンス許可
  - Replication Agent – IBM DB2 UDB のライセンス許可

**参照：**

- ライセンス・オプション (5 ページ)

## **Replication Server Heterogeneous Edition**

---

Replication Server Options および Replication Server はともに Replication Server Heterogeneous Edition (RSHE) の一部としても販売されます。

RSHE を使用すると、さまざまなデータ サーバ間での複写が可能になります。RSHE は、Adaptive Server® Enterprise と、Oracle、IBM DB2 UDB、Microsoft SQL Server などの Sybase 以外のデータ サーバをサポートします。

RSHE は、Replication Server 15.7.1、Replication Agent 15.7.1、ECDA 15.0.1 以降、ExpressConnect for Oracle 15.7.1 と同じプラットフォーム/オペレーティング・システム構成で動作します。具体的なハードウェア要件とソフトウェア要件については、『Replication Server インストール・ガイド』、『Replication Agent インストール・ガイド』、『Enterprise Connect Data Access Release Bulletin』、および『ExpressConnect for Oracle Installation and Configuration Guide』を参照してください。

このリリース・ノートについて  
RSHE は次のもので構成されます。

- Replication Server 15.7.1
- Replication Agent 15.7.1 (以下を含む)
  - Replication Agent for Oracle
  - Replication Agent for Microsoft SQL Server
  - Replication Agent for IBM DB2 UDB
- ECDA Options 15.0.1

---

**注意：** RSHE 15.7.1 では、ECDA は Microsoft SQL Server および IBM DB2 Universal Database (UDB) に接続するためだけに使用されます。ECDA option for Oracle は RSHE 15.7.1 ではサポートされません。

---

- Express Connect for Oracle 15.7.1

Replication Server を除くすべての RSHE コンポーネントは静的にライセンスされません。

Replication Server 15.7.1 は、Replication Server 15.7.1 がインストールされている CPU のサブセットについてライセンスされます (サブキャパシティ・ライセンス)。  
『Replication Server インストール・ガイド』を参照してください。

### Solaris x64 の RSHE

Solaris x64 の RSHE は、Oracle データベース用のみで、Replication Agent for Oracle および ECO を含みます。

## Replication Server Real-Time Loading Edition

---

Replication Server の Real-Time Loading Edition (RTLE) には、Sybase® IQ データベースに対して複製するために必要なコンポーネントが含まれています。

RTLE では、Real-Time Loading を使用して Adaptive Server® または Oracle から Sybase IQ にデータを複製できます。Oracle から複製するには、Replication Agent for Oracle が必要です。Real-Time Loading は、Replication Server でサポートされているすべてのプラットフォームでサポートされていますが、Replication Agent for Oracle は Linux on POWER では使用できません。ただし、サポートされているプラットフォームでは Replication Agent for Oracle を実行できます。Replication Agent for Oracle を使用できるプラットフォームの詳細については、『Replication Agent インストール・ガイド』を参照してください。

このリリース・ノートについて  
RTLE は次のもので構成されます。

- Replication Server 15.7.1
- Replication Agent for Oracle 15.7.1

RTLE により、Replication Agent for Oracle は静的にライセンスされます。

---

**注意：** RTLE は Replication Agent for Oracle と互換性がありますが、RSO または RSHE に含まれていません。

---

Replication Server 15.7.1 は、Replication Server 15.7.1 がインストールされている CPU のサブセットについてライセンスできます (サブキャパシティ・ライセンス)。  
『Replication Server インストール・ガイド』を参照してください。

## Replication Agent

---

Replication Agent により、Sybase 以外のデータベース・サーバを Sybase 複製テクノロジーに基づいた複製システムのプライマリ・データ・サーバとして使用できるようになるため、Sybase Replication Server の機能を拡張することができます。

Replication Agent がサポートされているプラットフォームとオペレーティング・システムのリストについては、『Replication Agent インストール・ガイド』を参照してください。

## 製品の互換性

データベース・サーバ、ドライバ、製品との Replication Agent の互換性について説明します。

表 1：互換性のあるデータベース

データベース	バージョン
Oracle サーバ	10g (10.2)、10g ASM、10g RAC、9i 互換モードでの 10g、11g (11.1、11.2)、11g ASM、11g RAC
Microsoft SQL Server	2008 R1 Service Pack 2 および 2008 R2 – Replication Agent は、Microsoft SQL Server 2008 で導入された機能およびデータ型はサポートしていません。  <b>注意：</b> Microsoft SQL Server 2005 およびこれ以前のバージョンのサポートは終了しました。Microsoft SQL Server インスタンス用に Replication Agent をマイグレートする前に、プライマリ・データベース・サーバをサポートされているバージョンにアップグレードする必要があります。サポートされているバージョンの詳細については、動作確認 Web サイト ( <a href="http://certification.sybase.com/ucr/search.do">http://certification.sybase.com/ucr/search.do</a> ) を参照してください。
IBM DB2 Universal Database	Enterprise Edition 9.1、9.5、9.7

Replication Agent では、プライマリ・データ・サーバ用の JDBC™ 3.0 準拠ドライバが必要です。

表 2：互換性のあるドライバ

ドライバ	バージョン
Oracle JDBC ドライバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 10.2 (JDK 1.4、1.5 の場合)</li> <li>• 11.1 (JDK 1.5 の場合)</li> <li>• 11.2 (JDK 1.6 の場合)</li> </ul> <p><b>注意：</b> Oracle バージョン 10.1、10.2 または 11.1 の場合は、いずれかのドライバを使用できます。ただし、Oracle 11.2 の場合は、Oracle JDBC 11.2 ドライバを使用する必要があります。</p>
Microsoft SQL Server JDBC ドライバ	3.0



ドライバ	バージョン
DB2 Universal Database Administration Client	Linux プラットフォームの場合は 64 ビット版、Windows プラットフォームの場合は 32 ビット版のみ。次のバージョンを使用。 <ul style="list-style-type: none"> <li>9.5 – DB2 9.1 および 9.5 の場合</li> <li>9.7 – DB2 9.7 の場合</li> </ul>

表 3：互換性のある製品

Sybase 製品	バージョン
Replication Server	15.6、15.7、15.7.1、およびそれ以降。
ExpressConnect for Oracle	15.7.1 <b>注意：</b> ECO 15.7.1 は、Replication Server 15.7.1 とのみ互換性があります。
ECDA Option for ODBC	15.0.1
Sybase ソフトウェア資産管理 (SySAM)	2

## ライセンス・オプション

インストールする前に、ライセンス・オプションを確認します。

表 4：RSO コンポーネントのライセンス・オプション

RSO コンポーネント	ライセンス・オプション
Replication Agent	SPDC から取得した SySAM サードまたはアンサーブド・ライセンスが必要です。
ECDA for ODBC	Getting Started CD から、SYBASE_REP_ECDA.lic 静的ライセンス・ファイル、および README.txt ファイルを含む SYBASE_RSO_licenses.zip ファイルを取得します。
ECO	Express Connect for Oracle のライセンスは、Express Connect for Oracle をインストールすると自動的にインストールされます。

表 5 : RSHE コンポーネントのライセンス・オプション

RSHE コンポーネント	ライセンス・オプション
Replication Server	SPDC から取得した SySAM サードまたはアンサーブド・ライセンスが必要です。
Replication Agent	Getting Started CD から、Replication Agent のライセンス、ECDA のライセンス、および README.txt ファイルを含む SYBASE_RSHE_licenses.zip 静的ライセンス・ファイルを取得します。  Replication Agent は、RSHE のライセンスが適用されるバージョンの Replication Server でのみ使用できます。
ECDA	Getting Started CD から、Replication Agent のライセンス、ECDA のライセンス、および README.txt ファイルを含む SYBASE_RSHE_licenses.zip 静的ライセンス・ファイルを取得します。  ECDA は、RSHE のライセンスが適用されるバージョンの Replication Server でのみ使用できます。  <b>注意：</b> ECDA を使用して Microsoft SQL Server および IBM DB2 Universal Database (UDB) に接続します。Oracle に接続するには、ExpressConnect for Oracle を使用します。
ECO	Express Connect for Oracle のライセンスは、Express Connect for Oracle をインストールすると自動的にインストールされます。

表 6 : RTLE コンポーネントのライセンス・オプション

RTLE コンポーネント	ライセンス・オプション
Replication Server	SPDC から取得した SySAM サードまたはアンサーブド・ライセンスが必要です。
Replication Agent for Oracle	SPDC または Getting Started CD から、Replication Agent for Oracle のライセンスおよび Readme.txt ファイルを含む Replication Agent 15.7.1 静的ライセンス・ファイルを取得します。  <b>注意：</b> このライセンスは、Replication Agent for Oracle 15.6 でも有効です。  Replication Agent は、RTLE のライセンスが適用される Replication Server でのみ使用できます

# インストールとアップグレード

インストールとアップグレードに関する『インストール・ガイド』への追加および訂正、または重要事項の最新情報を示します。

## *Replication Server Options* のライセンス

『Sybase ソフトウェア資産管理 2 ユーザーズ・ガイド』で、モバイル・ライセンスに関する情報を参照してください。

サブキャパシティのライセンスを使用する場合は、次のいずれかを実行します。

- インストーラを起動する前に、**sysamcap** ユーティリティを使用して、**SYBASE\_SAM\_CAPACITY** 環境変数を設定します。  
『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティの設定」で説明されている手順に従います。ただし、サブキャパシティ対応の Sybase 製品を起動するのではなく、インストーラを起動します。インストーラには、**sysamcap** ユーティリティが `sysam_utilities/bin` に含まれています。
- インストール時に [Sybase Software Asset Management ライセンス] ウィンドウで [ライセンス・キーなしでインストールを続行] を選択します。インストール後に、`installed_directory/SYSAM-2_0/licenses` ディレクトリにライセンス・キーをコピーします。`installed_directory` は、コンポーネントをインストールした場所です。

## ライセンスの有効期限

Replication Server Options、Replication Server、および Adaptive Server は、同じレジストリを使用します。これらの製品のいずれかのライセンスの有効期限が切れた場合、他の製品のライセンスにも影響を与えます。Replication Server Options のいずれかを評価している場合は、Sybase に別の評価版ライセンスをお求めください。それ以外の場合は、SPDC でライセンスを生成して展開してください。

## *InstallAnywhere* インストーラと *InstallShield Multiplatform* インストーラの実行

*InstallAnywhere* および *InstallShield Multiplatform* によって生成された一部のファイルは、同じファイル名を共有します。このことは、*InstallAnywhere* と *InstallShield* の両方のテクノロジーを使用して、製品を同じインストール・ディレクトリにインストールする場合、またはそこからアンインストールする場合に問題になります。これは、両方のインストーラによって使用されるファイルが警告なしで上書きまたは削除されるためです。Sybase では、*InstallShield* および *InstallAnywhere* を使用して、同じインストール・ディレクトリにインストールしたり、またはそこからアンインストールしたりしないことをおすすめします。

## Replication Agent の静的ライセンスのインストール

---

RSHE または RTLE のインストール中に静的ライセンスを指定しなかった場合は、インストール完了後に静的ライセンスをインストールしてください。

1. Replication Agent インスタンスが実行している場合は停止します。
2. Replication Agent の静的ライセンス・ファイルを次の場所にコピーします。
  - `$SYBASE/SYSAM-2_0/licenses` (UNIX または Linux)
  - `%SYBASE%\SYSAM-2_0\licenses` (Windows)

ここで、`$SYBASE` or `%SYBASE%` は Replication Agent をインストールした場所です。

3. Replication Agent のインスタンスを再起動します。
4. Replication Agent ログ・ファイルをチェックして、Replication Agent インスタンスが正常に起動したかを確認します。
  - `$SYBASE/RAX-15_x/<instance_name>/log/<instance_name>.log` (UNIX または Linux)
  - `%SYBASE%\RAX-15_x\<instance_name>\log\<instance_name>.log` (Windows)

## RSO および RSHE での ECDA の静的ライセンスのインストール

---

Microsoft SQL Server および IBM DB2 UDB 用の Replication Server Option、および RSHE で ECDA を使用するために静的 SySAM ライセンス・ファイルをインストールします。

1. ECDA インスタンスが実行している場合は停止します。
2. 次の場所に ECDA 静的ライセンス・ファイルをコピーします。
  - `$SYBASE/SYSAM-2_0/licenses` (UNIX または Linux)
  - `%SYBASE%\SYSAM-2_0\licenses` (Windows)

ここで、`$SYBASE` または `%SYBASE%` は ECDA をインストールした場所です。

3. ECDA インスタンスを再起動します。
4. ECDA インスタンス・ログ・ファイルをチェックして、ECDA インスタンスが正常に起動したかを確認します。

- `$SYBASE/DC-15_0/servers/<servername>/log/  
<servername>.log` (UNIX または Linux)
- `%SYBASE%\DC-15_0\servers\<servername>\log  
\<servername>.log` (Windows)

ここで、`$SYBASE`または `%SYBASE%` は ECDA をインストールした場所です。

## RSHE 15.6 から RSHE 15.7.1 へのマイグレーション

---

Replication Server Heterogeneous Edition の 15.6 から 15.7.1 へのマイグレーション・パスについて説明します。

### *Replication Server*

Replication Server インストーラを使用して Replication Server 15.7.1 をインストールします。Replication Server のアップグレードについては、使用しているプラットフォームの『Replication Server 15.7.1 設定ガイド』を参照してください。

### *Replication Agent*

Replication Agent インストーラを使用して Replication Agent 15.7.1 をインストールします。Replication Agent のアップグレードについては、『Replication Agent Primary Database Guide 15.7.1』の「Replication Agent のアップグレードとダウングレード」を参照してください。

### *ECDA*

---

**注意：**RSHE 15.7.1 では、ECDA は Microsoft SQL Server および IBM DB2 Universal Database (UDB) に接続するためだけに使用されます。ECDA option for Oracle は RSHE 15.7.1 ではサポートされません。

---

ECDA 15.0.1 がインストールされていない場合、ECDA 15.0.1 インストーラを使用します。ECDA 15.0.1 の詳細については、<http://www.sybase.com/downloads> で「ECDA 15.0.1 Release Cover Letter」を参照してください。

### *ExpressConnect for Oracle*

Oracle データベースにアクセスするには、ExpressConnect for Oracle をインストールします。詳細については、『ExpressConnect for Oracle Installation and Configuration Guide』を参照してください。

## Replication Agent のインストールについての特別な指示

---

このバージョンの Replication Agent の追加のインストール要件について説明します。

### Visual C++ 2005 ランタイム・コンポーネント

Microsoft Windows にインストールする場合、Replication Agent 15.6 インストール・プログラムを実行するには、Microsoft Visual C++ 2005 ライブラリのコンポーネントが必要です。これらのライブラリがインストールされていないと、Sybase インストーラは警告またはエラー・メッセージを発行せずに応答しなくなります。

Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージがすでにインストールされているかどうかを確認するには、[スタート]>[コントロールパネル]>[プログラムの追加と削除]を選択して、Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージを探します。

Visual C++ 2005 は Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ (x86) ページからダウンロードできます。vc\_redist\_x86.exe を実行して、Microsoft Windows 32 ビットまたは 64 ビットのマシンに Visual C++ ランタイム・コンポーネントをインストールします。

### SySAM サーバのインターネット・プロトコルの構成

SySAM では、インターネット・プロトコル・バージョン 6 および 4 (それぞれ、IPv6 および IPv4) をサポートしていますが、Replication Agent でサポートされているのは IPv4 のみです。Replication Agent インストール・プログラムによってインストールされた SySAM サーバは、IPv4 を使用するよう構成されます。この構成はそのまま使用することをおすすめします。ただし、IPv6 を使用する必要がある場合は、アンサーブド・ライセンスを使用して Replication Agent のライセンスを取得してください。

### SySAM サブキャパシティ・ライセンス

サブキャパシティのライセンスを使用する場合は、次のいずれかを実行します。

- インストーラを起動する前に、**sysamcap** ユーティリティを使用して、**SYBASE\_SAM\_CAPACITY** 環境変数を設定します。  
『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティの設定」で説明されている手順に従います。ただし、サブキャパシティ対応の Sybase 製品を起動するのではなく、インストーラを起動します。インストーラには、**sysamcap** ユーティリティが `sysam_utilities/bin` に含まれています。
- インストール時に [Sybase Software Asset Management ライセンス] ウィンドウで [ライセンス・キーなしでインストールを続行] を選択します。インストール後に、`installed_directory/SYSAM-2_0/licenses` ディレクトリにライセ

ンス・キーをコピーします。*installed\_directory*は、コンポーネントをインストールした場所です。

## ExpressConnect for Oracle の特別なインストールの指示

バージョン 15.7.1 以降では、ExpressConnect for Oracle (ECO) に、実行に必要な Oracle クライアント・ライブラリが含まれません。ライブラリは、個別にダウンロードしてインストールする必要があります。

Oracle クライアント・ライブラリの適切なバージョンとプラットフォームおよびインストールの指示の詳細については、ECO カバー・レターの「General Information and Technical Notes」セクションを参照してください。カバー・レターが使用不可の場合、「Oracle Instant Client Libraries Installation Instructions」(『ExpressConnect for Oracle Installation and Configuration Guide』)を参照してください。

## 特別なアップグレードとダウングレードの指示

Replication Agent の特別なアップグレードおよびダウングレードの手順について説明します。

Replication Agent をアップグレードおよびダウングレードするには、『Replication Agent Primary Database Guide』の付録 A の指示に従ってください。

## Replication Agent 15.6 の上にインストールされた Replication Agent 15.7.1 のダウングレード

デフォルトでは、Replication Agent 15.7.1 インストーラは RAX-15\_5 ディレクトリを使用し、Replication Agent 15.5 インストールを上書きします。標準的な Replication Agent 15.7.1 インストールを正しくダウングレードするには、次の手順に従います。

1. Replication Agent 15.7.1 を停止します。
2. Replication Agent 15.6 をデフォルトのインストール・ディレクトリにインストールします。
3. 次のコマンドを実行して、ダウングレードの準備を行います。

```
ra_downgrade installation_path
```
4. 次のコマンドを実行して、ダウングレードを完了します。

```
ra_downgrade_accept timestamp.export
```

## 既知の問題

ここで、`timestamp.export` は、`ra_downgrade` が RASD の内容を抽出したファイルです。

5. Replication Agent 15.6 を起動し、複写をレジュームします。

## 既知の問題

すでにわかっている問題と対処方法について説明します。

問題は CR (Change Request) 番号によって検索可能です。

---

**注意：** 解決済みの問題については Sybase Web サイトで検索できます。[サポート] > [解決事例] を選択するか、<http://search.sybase.com/search/simple.do?mode=sc> にアクセスします。アーカイブで解決済みの問題を表示するには、MySybase アカウントが必要です。

---

Enterprise Connect Data Access (ECDA) に関する既知の問題については、次を参照してください。

- Microsoft Windows の場合は『Enterprise Connect Data Access Release Bulletin for Microsoft Windows』
- Linux および UNIX の場合は『Enterprise Connect Data Access Release Bulletin for Linux and UNIX』
- 使用しているプラットフォームに対応した『Replication Server リリース・ノート』

Replication Server Options に関する既知の問題は、個々の製品のリリース・ノートで説明されている既知の問題の追加です。



## ExpressConnect for Oracle に関する既知の問題

ExpressConnect for Oracle に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 7 : ExpressConnect for Oracle に関する既知の問題

CR#	説明
627878	<p><b>ExpressConnect for Oracle は、opaque データ型をサポートしない。</b></p> <p>Replication Server の opaque データ型は、ExpressConnect for Oracle 15.7.1 ではサポートされていません。つまり、このバージョンの ExpressConnect for Oracle では、ユーザー定義のデータ型と、Oracle の <b>anydata</b> 関数は使用できません。</p> <p><b>対処方法</b>：なし。</p>
626715	<p><b>ExpressConnect for Oracle は、バルク・コピーが有効になっていて、バルク・コピーのスレッシュホールドが 1 になっていると異常終了する。</b></p> <p>ExpressConnect for Oracle は、<b>dsi_bulk_copy</b> をオンにし、<b>dsi_bulk_threshold</b> を 1 に設定すると異常終了します。<b>dsi_bulk_threshold</b> を 1 に設定すると、データ・サーバ・インタフェース (DSI) のパフォーマンスが低下し、中断されます。</p> <p><b>対処方法</b>：<b>dsi_bulk_threshold</b> を 2 またはそれ以上に設定します。</p>
590128	<p><b>LOB 値が既存のローに適用されていない。</b></p> <p>LOB カラムを複写する際、ExpressConnect for Oracle では、LOB を保持する Oracle ローの ROWID 値が最初に決定されます。その ROWID のローは、LOB 値で更新されます。ただし、レプリケート Oracle データベース内のテーブルが参照テーブルで、親テーブルが複数のテーブル領域に分割されている場合は、参照テーブルに返される ROWID が適切でない可能性があり、LOB 値が期待されるローに適用されません。この不適切な ROWID 問題の Oracle バグ ID は 8417690 です。</p> <p><b>対処方法</b>：なし。</p>

## Red Hat Enterprise Linux 5.0 の既知の問題

Red Hat Enterprise Linux 5.0 での Replication Server Options コンポーネントの実行に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 8 : Red Hat Enterprise Linux 5.0 の既知の問題

CR#	説明
	<p><b>Replication Agent または ECDA を開始できない。</b></p> <pre>Error while loading shared libraries.</pre> <p>というメッセージが表示されます。</p> <p><b>対処方法:</b> システム設定を確認し、ファイアウォールの設定を <b>enforcing</b> から <b>permissive</b> に変更します。この変更を行うには、root または sudo パーミッションが必要です。</p>

## Replication Agent の既知の問題

すでにわかっている問題と対処方法について説明します。

### Replication Agent インストーラの既知の問題

Replication Agent インストーラに関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 9 : Replication Agent インストーラの問題

CR#	説明
706053	<p><b>リソース・ファイルを使用して、pds_username を作成することはできない。</b></p> <p>リソース・ファイルで <b>create_pds_username</b> が yes に設定されている場合、作成すると次のエラーが発生します。</p> <pre>Apr 23, 2012 10:27:54 AM com.sybase.ra.admin.oracle.RAOAdmin verifyPDSConnections ERROR: Length of user ID &lt;RA_USER_CREATED&gt; exceeds the maximum 30 characters. Apr 23, 2012 10:27:54 AM com.sybase.ra.admin.oracle.RAOAdmin verifyPDSConnections ERROR: Length of password &lt;[C@40f6a33b&gt; exceeds the maximum 30 characters.</pre> <p><b>対処方法:</b> <b>pds_username</b> を手動で作成します (インスタンス作成を除く)。</p>

CR#	説明
699784	<p>AIX プラットフォーム上の Replication Agent インストールが失敗する。</p> <p>AIX に Replication Agent ソフトウェアをインストールすると、SySAM のみがインストールされ、Replication Agent のコンポーネントが失敗します。</p> <p><b>対処方法:</b>IATEMPDIR 環境変数を十分な領域のある場所に設定して、RepAgent インストーラを再起動します。</p>
631310	<p>インストール時にサブド・ライセンスを指定しないかぎり、SySAM Imgrd デーモンがインストールされない。</p> <p><b>対処方法：</b></p> <p>Replication Agent 15.6 のインストール中に SySAM サーバをインストールするには、サブド・ライセンスを指定します。</p> <p>Replication Agent 15.6 インストーラを実行せずに SySAM サーバをインストールするには、次のコマンドを実行して、Replication Agent 15.6 インストール・メディアの archives ディレクトリから直接 SySAM サーバ・インストーラを起動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Windows の場合：archives¥sysam_server¥setup.exe LAX_VM %JAVA_HOME%¥bin¥java.exe</li> <li>2. UNIX の場合：archives/sysam_server/setup.bin LAX_VM \$JAVA_HOME/bin/java</li> </ol> <hr/> <p><b>注意：</b>Java インストールにアクセスできない場合は、Replication Agent 15.6 インストーラを実行すると、適切な JRE がインストールされます。この JRE を参照するには、SYBASE_JRE6 環境変数を使用します。</p>

CR#	説明
625227	<p><b>SPDC で生成されたパーティション・レベルのサブド・ライセンスが機能しない場合がある。</b></p> <p>Sybase 製品ダウンロード・センタから生成されたパーティション・レベルのサブド・ライセンスを使用して SySAM サーバを起動すると、使用するライセンス・キーが無効であることを示す次のようなメッセージが表示されます。</p> <pre>(SYBASE) Invalid license key (inconsistent authentication code) ... (SYBASE) License server system started on hpiabou (SYBASE) No features to serve, exiting (SYBASE) EXITING DUE TO SIGNAL 49 Exit reason 4 (lmgrd) SYBASE exited with status 49 (No features to serve) (lmgrd) SYBASE daemon found no features. Please correct (lmgrd) license file and re-start daemons. (lmgrd) (lmgrd) This may be due to the fact that you are using (lmgrd) a different license file from the one you expect. (lmgrd) Check to make sure that: (lmgrd) /remote/cat_fc/nli/iq152.hpia/SYSAM-2_0/licenses/ 18965_hpiabou_ (lmgrd) is the license file you want to use.</pre> <p><b>対処方法：</b>ライセンス・サーバで実行しているライセンスの以前のホスト ID を使用します。</p>
622349	<p><b>ライセンス・ディレクトリが常に作成されない。</b></p> <p>アンサード・ライセンスを使用して Replication Agent をインストールした場合、デフォルトのライセンス・ディレクトリ licenses は作成されません。この場合、Replication Agent がライセンス・ファイルにアクセスできないため、猶予期間が 30 日の期限付きライセンスが使用されます。</p> <p><b>対処方法：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>licenses ディレクトリを \$SYBASE/SYSAM-2_0 に手動で作成します。</li> <li>アンサード・ライセンスを licenses ディレクトリにコピーします。</li> <li>Replication Agent を再起動します。</li> </ol>
618407	<p><b>サブド・ライセンスを使用して Replication Agent をインストールすると、問題が発生する。</b></p> <p>サブド・ライセンスを使用して Replication Agent をインストールすると、SySAM ユーティリティが 2 回インストールされ、Java ランタイム環境 (JRE) の 2 つのコピーがインストールされます。このような問題は Replication Agent には影響しないため、無視してかまいません。</p> <p><b>対処方法：</b>なし。</p>

CR#	説明
616338	<p><b>IBM AIX に Replication Agent を再インストールすると、問題が発生する。</b></p> <p>Replication Agent インスタンスの作成、起動、停止後に IBM AIX に Replication Agent を再インストールすると、インストール・プログラムでエラーが発生します。このエラーは後続の Replication Agent インスタンスには影響しないため、無視してかまいません。</p> <p><b>対処方法：</b>なし。</p>
615072	<p><b>SySAM サーバおよび SySAM ユーティリティのインストール情報が表示されない。</b></p> <p>サブド・ライセンスを使用して Replication Agent をインストールすると、[SySAM Utilities and SySAM Server Install] 画面に SySAM コンポーネントのインストールの進行状況が表示されます。ただし、Windows XP または Windows 2003 マシンのコンソールまたは GUI モードでインストールを実行した場合、[SySAM Utilities and SySAM Server Install] 画面に必要な情報は表示されません。</p> <p><b>対処方法：</b> [Sybase Software Asset Management] 画面が表示されるまで待機してから、インストールを続行します。進行状況表示バーが表示されない場合でも、インストール・プログラムによって SySAM コンポーネントはインストールされています。</p>
614944	<p><b>SySAM サーバがすでに実行中の場合でも、Replication Agent がサブド・ライセンスを使用してインストールされる。</b></p> <p>Windows Vista に Replication Agent をコンソール・モードでインストールする場合は、SySAM サーバがすでに実行中の場合でも、サブド・ライセンスを使用して Replication Agent をインストールすることができます。ただし、次のエラーが表示されると、インストール・プログラムによってインストール・プロセスが停止されます。</p> <pre>Error: The license key(s) you entered requires a Sybase Software Asset Management (SySAM) license server. The installer has detected a SySAM license server running on this host. Only one SySAM server can be setup on a system. You need to deploy the served-license key(s) to the existing server.</pre> <p><b>対処方法：</b> Windows Vista のコンソール・モードで Replication Agent をインストールする場合、次の手順を実行して、コンソール・インストーラの互換モードを Windows XP に変更します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Windows エクスプローラで、setupConsole.exe を右クリックします。</li> <li>2. [プロパティ] を選択します。</li> <li>3. [互換性] タブで、Windows XP 互換モードを選択します。</li> <li>4. 次のコマンドを実行して、インストール・プログラムを起動します。  <pre>setupConsole.exe -i console</pre> </li> </ol>

CR#	説明
614742	<p><b>[Available License Check] ウィンドウに正しいデータベース名が表示されない。</b></p> <p>[Sybase Software Asset Management ライセンス] パネルに無効なライセンスを入力し、[次へ] をクリックすると、[Available License Check] ウィンドウに次のメッセージが表示されます。</p> <pre>Replication Agent for database_type, license not found</pre> <p>[Previous] をクリックして、データベース・タイプを変更し、[次へ] をクリックすると、ライセンスが無効なままである場合は再度エラー・メッセージが表示されます。ただし、このメッセージには新しいデータベース・タイプは反映されません。</p> <p><b>対処方法：</b>このメッセージを無視して、有効なライセンスが入力されていることを確認します。</p>
609606	<p><b>Windows Vista に Replication Agent をインストールすると、余分なコンソールが表示される。</b></p> <p>Windows Vista にコンソール・モードで Replication Agent をインストールすると、余分なコンソールが表示されます。この余分なコンソールを使用することはおすすめしません。</p> <p><b>対処方法：</b>余分なコンソールが表示されないようにするには、次の手順を実行してユーザ・アカウント・コントロール (UAC) を無効にしてから、インストール・プログラムを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [コントロールパネル]&gt;[ユーザー アカウント]&gt;[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化] を選択します。</li> <li>2. [ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる] チェック・ボックスをオフにします。</li> <li>3. マシンを再起動します。</li> </ol>
606761	<p><b>Windows ワークステーションから Hummingbird Exceed を使用したときにテキスト・フィールドを適切に表示できない。</b></p> <p>Windows ワークステーションから Hummingbird Exceed を使用して UNIX ホストに Replication Agent をインストールすると、Sybase インストーラの画面にすべてのテキスト・フィールドが表示されない場合があります。</p> <p><b>対処方法：</b>ネイティブ X-Windows セッションを使用して Sybase インストール・プログラムを実行するか、コンソール・モードまたはサイレント・モードで Sybase インストール・プログラムを実行します。『Replication Agent インストール・ガイド』を参照してください。</p>

CR#	説明
595614	<p><b>Microsoft Windows 2008 でインストール・プログラムがインストール・ディレクトリを作成できない。</b></p> <p>Microsoft Windows 2008 で、インストール・プログラムが Replication Agent インストール・ディレクトリを作成できるのは、管理者としてログインしている場合のみです。これは、ユーザの役割にディレクトリを作成するパーミッションが付与されている場合でも同様です。</p> <p><b>対処方法：</b>インストール・プログラムを実行する前に、インストール・ディレクトリを作成してください。</p>
595582	<p><b>setup.bin へのパスに “..” が含まれていると、インストーラが起動しない。</b></p> <p>UNIX および Linux プラットフォームでは、指定した setup.bin へのパスに “..” が含まれていると、インストーラが起動しません。</p> <p><b>対処方法：</b>setup.bin へのパスに “..” が含まれていないことを確認します。</p>
595573	<p><b>アンインストール・プロセスが応答しない。</b></p> <p>[ユーザ・ファイルの削除] 画面で [削除] を選択してから、[アンインストール完了] 画面で [戻る] をクリックすると、アンインストール・プログラムが応答しなくなります。[ユーザ・ファイルの削除] と [アンインストール完了] は、アンインストール・プログラムで表示される最後の 2 つの画面です。</p> <p><b>対処方法：</b>[削除] を選択した後に、[ユーザ・ファイルの削除] 画面に戻らないでください。</p>
594586	<p><b>ディスク領域情報が不正確である。</b></p> <p>インストール・プログラムによって表示されるディスク領域要件が不正確です。</p> <p><b>対処方法：</b></p> <p>ご使用のプラットフォームの正しいディスク領域要件については、『Replication Agent インストール・ガイド』を参照してください。</p>

既知の問題

CR#	説明
593410	<p>インストール・プログラムを実行しても Replication Agent アーカイブが展開されない。</p> <p>UNIX および Linux プラットフォームでは、\$PATH 環境変数でオペレーティング・システムが提供する tar ユーティリティの前に GNU コレクションの tar ユーティリティが指定されていると、tar コマンドを発行したとき、GNU tar ユーティリティが呼び出され、インストーラが失敗し、次のエラーが返されます。</p> <pre data-bbox="323 465 1177 569">The included VM could not be unarchived (TAR). Please try to download the installer again and make sure that you download using 'binary' mode. Please do not attempt to install this currently downloaded copy.</pre> <p><b>対処方法</b>：\$PATH 環境変数で、GNU tar ユーティリティの前にオペレーティング・システムが提供する tar ユーティリティを指定します。</p>
579988	<p><b>./setup.bin:!:not found</b> というメッセージが、Solaris に Replication Agent をインストールすると表示される。</p> <p>Solaris に Replication Agent をインストールすると、次のエラー・メッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="323 829 1177 907">Preparing to install... ./setup.bin: !: not found Extracting the installation resources from the installer archive... Configuring the installer for this system's environment...</pre> <p><b>対処方法</b>：このメッセージを無視して続行します。</p>



## あらゆるデータベース・ターゲットに関する既知の問題

特定の環境またはデータ・サーバの種類に限定されない Replication Agent の既知の問題とその対処方法について説明します。

表 10 : あらゆるデータベース・ターゲットに関する問題

CR#	説明
701683	<p><b>ra_migrate</b> が正常な実行ステータスを返した場合でも、<b>pdb_auto_run_scripts</b> が <b>true</b> に設定されていない場合、マイグレーションが完了しない場合がある。</p> <p><b>対処方法:</b>マイグレーションを開始する前に <b>pdb_auto_run_scripts</b> が <b>true</b> に設定されていることを確認してください。</p> <p>確認するには、次を実行します。</p> <pre>ra_config pdb_auto_run_scripts go</pre> <p>値を変更するには、次を実行します。</p> <pre>ra_config pdb_auto_run_scripts, true go</pre>
642804	<p>不適切な <b>pdb_auto_create_repdefs</b> コマンドの説明が出力に表示される。</p> <p><b>ra_config</b> は、<b>pdb_auto_create_repdefs</b> の不適切な説明を表示します。</p> <p><b>対処方法:</b>『Replication Agent リファレンス・マニュアル』を参照して、<b>pdb_auto_create_repdefs</b> コマンドの適切な説明の詳細を取得します。</p>
628568	<p>テーブルが自動的に複写するようマーク付けされている場合、<b>Replication Agent</b> の初期化が失敗する場合がある。</p> <p><b>pdb_automark_tables</b> が <b>true</b> に設定されていると、<b>pdb_xlog init</b> コマンドが失敗する場合があります。</p> <p><b>対処方法:</b> <b>pdb_automark_tables</b> を <b>false</b> に設定してから、<b>pdb_xlog init</b> を発行します。<b>pdb_automark_tables</b> は、Replication Agent の初期化後、<b>true</b> に設定できません。</p>
624714	<p><b>Microsoft Windows 64 ビット版プラットフォームで Windows サービスとして Replication Agent を実行する場合の制限事項。</b></p> <p>現在、Microsoft Windows Services ユーティリティを使用して、Replication Agent の Microsoft Windows サービス・インスタンスを起動、停止、削除、またはインストールすることはできません。</p> <p><b>対処方法:</b> <b>agt_service.bat</b> を使用して、Replication Agent インスタンスを起動、停止、削除、またはインストールします。</p>

CR#	説明
611175	<p><b>スレッド・スタック・オーバーフローが原因で、Java 仮想マシンが応答しなくなる。</b></p> <p>HP-UX 64 ビット版マシンで実行中の Replication Agent for Oracle または Replication Agent for UDB で大量のデータを処理するときに、スレッド・スタック・サイズのメモリの設定が不十分な場合、次のメッセージが表示され、スレッド・スタック・オーバーフローが原因で Java 仮想マシン (JVM) がクラッシュする場合があります。</p> <pre>Pid xxxx was killed due to failure in writing to user register stack - possible stack overflow.</pre> <p><b>対処方法：</b> HP-UX PTHREAD_DEFAULT_STACK_SIZE 環境変数を使用して、Replication Agent に対応できるようにデフォルトのスレッド・スタック・サイズを増やします。Replication Agent のすべてのインスタンスについてこの手順を実行するには、次の 2 行を \$SYBASE/RAX-15_5/bin/ra.sh ファイルに追加し、適切なスタック・サイズを設定してから、Replication Agent を実行します。</p> <pre>PTHREAD_DEFAULT_STACK_SIZE=2048000 export PTHREAD_DEFAULT_STACK_SIZE</pre>
	<p><b>バージョンが 15.2 より前の Replication Server のテーブル複写定義の変更が Replication Agent で認識されない。</b></p> <p>Replication Agent によって、Replication Server から読み込まれるテーブル複写定義のコピーがキャッシュされます。バージョンが 15.2 より前の Replication Server では、テーブル複写定義の変更で Replication Agent が自動的に更新されないため、Replication Agent ではテーブル複写定義の変更時期を認識できません。</p> <p><b>対処方法：</b> バージョンが 15.2 より前の Replication Server のテーブル複写定義を変更する前に、Replication Agent をクワイース状態にし、ADMIN 状態になるまで待機します。複写をレジュームすると、Replication Agent は新しいテーブル複写定義を使用します。</p>
	<p><b>Red Hat Linux 5.0 での実行時に共有ライブラリをロードするとエラーが発生する。</b></p> <p>Replication Agent を起動しようとする、次のエラー・メッセージが表示される場合があります。</p> <pre>Error while loading shared libraries.</pre> <p><b>対処方法：</b> システム設定を確認し、ファイアウォールの設定を <b>enforcing</b> から <b>permissive</b> に変更します。この変更を行うには、<b>root</b> または <b>sudo</b> パーミッションが必要です。</p>

## Oracle に関する既知の問題

Oracle に固有の Replication Agent に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 11 : Replication Agent for Oracle の問題

CR#	説明
709173	<p>Replication Agent がハッシュで分割されたテーブルの LOB のある記録を、HPIA64 および Windows プラットフォームの Oracle 11.1 で処理すると、次の例外エラーが発生する。</p> <p>Could not mine or match a RAW LogMiner record for record &lt;...Operation &lt;UNSUPPORTED&gt; ...SQL Redo &lt;Unsupported&gt; &gt; from SCN [&lt;xxx&gt;, &lt;xxx&gt;].&gt;</p> <p>対処方法:なし。</p>
708792	<p>Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ MFC セキュリティ更新がないため、Replication Server は Enterprise Connect for Oracle (ECO) ライブラリ・ファイルへの Windows x86 32 ビット・システムのロードに失敗する。</p> <p>対処方法:Microsoft Visual C++ 2005 セキュリティ更新をダウンロードしてインストールします。</p> <p><a href="http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=26347">http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=26347</a></p>
708629	<p>すべてのプラットフォームの Oracle SecureFile LOB をサポートできない。</p> <p>対処方法:Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタに問い合わせてください。</p>
708568	<p>tnsnames.ora ファイル・エントリによって Oracle Transparent Application Failover (TAF) が有効化されると、Oracle レプリケート・データ・サーバへのコネクションを作成できない。</p> <p>対処方法:tnsnames.ora ファイルのレプリケート・データ・サーバから "FAILOVER_MODE" を削除します。</p>

CR#	説明
707428	<p><b>OracleLogRecordProcessingException エラーが Oracle バージョン 11.1.0.6 で発生する。</b></p> <p>プライマリ・データベースのトランケート・パーティションを持つ、LOB とサブパーティションで分割されたテーブルを変更すると、OracleLogRecordProcessingException エラーが発生します。これは、Oracle バージョン 11.1.0.6 でのみ発生します。</p> <p><b>対処方法:</b>次のいずれかの方法を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドを使用するか、  <pre>ra_config skip_lr_errors, true go resume go</pre> </li> <li>Oracle バージョン 11.1.0.7 以降へアップグレードします。</li> </ul>
707274	<p><b>Oracle LogMiner が start SCN &lt;0&gt; を使用した起動に失敗するため、再開が失敗する。</b></p> <p><b>対処方法:</b>Replication Agent を再開します。</p>
707238	<p><b>pdb_setrepproc プロシージャのマーク付けが失敗する。</b></p> <p>プロシージャの所有者 (スキーマ) が <b>pds_username</b> ユーザと異なる場合、Replication Agent for Oracle は、プロシージャのマーク付けに失敗します。</p> <p><b>対処方法:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(プロシージャの所有者として) プロシージャをマーク付けを試行する前のステータスにリストアします。</li> <li>(<b>pds_username</b> ユーザとして) 隠しテーブルをドロップします。  <i>ra_admin_prefix</i>、<i>procedure_name</i>、および <i>shadow_table_id</i> (常に "sh") によって、隠しテーブル名が決定されます。たとえば、<i>ra_admin_prefix</i> が "ra_" の場合、<i>procedure_name</i> は "qay_proc3" で、隠しテーブル名は、"ra_qay_proc3sh" です。</li> <li>RA_PCALL シーケンスのパブリック・シノニムを作成します。  <pre>sqlplus&gt; create public synonym RA_PCALL for RA_PCALL;</pre> </li> <li>(RAO で) <b>pdb_setrepproc</b> を再度実行します。  <pre>isql&gt; pdb_setrepproc procedure_name, mark isql&gt; go</pre> </li> </ol>

CR#	説明
707122	<p><b>pdb_xlog</b> コマンドは、<b>xlog</b> が Oracle 10g で作成され、次に Oracle 11g で再作成されると失敗する。</p> <p><b>xlog</b> が Oracle 10g で作成され、削除され、Oracle 11g で再度作成されると、<b>pdb_xlog</b> コマンドは失敗します。これは、xlog 削除プロセスが RASD リポジトリをクリアせず、リポジトリに <b>installed_pdbver</b> および <b>installed_buildnum</b> を維持し、現在のバージョンが <b>installed_pdbver</b> と異なるためです。</p> <p>対処方法:なし。</p>
705702	<p><b>SYS</b> ユーザが使用する <b>DDL</b> コマンドがフィルタされない。</p> <p>対処方法:SYS ユーザを <b>DDL</b> フィルタに追加します。</p>
705418	<p><b>2K</b> より大きいサイズのロー外に格納された <b>LOB</b> を含んでいる <b>ANYDATA</b> データ型カラムの処理中に、<b>IllegalArgumentException</b> エラーが発生する。</p> <p>対処方法:なし。</p>
703563	<p><b>Replication Agent</b> は、<b>ra_admin_owner</b> が <b>pds_username</b> と異なる場合、初期化に失敗する。</p> <p>対処方法:dba を <b>pds_username</b> に付与します。</p>
703684	<p><b>Oracle LogMiner</b> に、<b>pdb_thread_filter</b> のサポートが必要。</p> <p><b>pdb_thread_filter</b> は、Oracle インスタンス redo ログ・スレッドまたは複製中のスレッドのすべてのアクティビティをフィルタし、フィルタされたスレッドのリストを表示します。現在、この構成は 15.7.1 に設定できますが、有効になりません。</p> <p>対処方法:なし。</p>

CR#	説明
703668	<p data-bbox="323 218 1177 279"><b>Replication Agent 15.7.1 を複写モードに設定できない。Oracle LogMiner のインストールなしの場合、エラーが発生する。</b></p> <p data-bbox="323 293 1042 322"><b>対処方法:</b>次のステップを実行して、Oracle LogMiner を設定します。</p> <ol data-bbox="323 347 1161 583" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="323 347 905 376">1. \$ORACLE_HOME/rdbms/admin へ移動します。</li> <li data-bbox="323 383 825 413">2. 'sys as sysdba' ユーザとしてログインします。</li> <li data-bbox="323 420 999 449">3. Oracle LogMiner のインストール・スクリプトを実行します。 @dbmslm.sql</li> <li data-bbox="323 491 1161 583">4. LogMiner がインストールされたら、次のように入力してパブリック・シノニムを作成します。こうすることで、所有者としてログインしなくても LogMiner 関数を実行できるようになります。</li> </ol> <pre data-bbox="364 595 895 644">CREATE PUBLIC SYNONYM DBMS_LOGMNR FOR SYS.DBMS_LOGMNR;</pre> <p data-bbox="364 670 1096 699"><b>注意：</b>この手順は Oracle 10g を使用している場合に必要となります。</p> <ol data-bbox="323 708 892 939" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="323 708 798 904">5. 次の権限を <b>pds_username</b> に付与します。 <ul data-bbox="364 748 758 904" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="364 748 677 777">• EXECUTE_CATALOG_ROLE</li> <li data-bbox="364 784 758 814">• select on V_\$LOGMNR_CONTENTS</li> <li data-bbox="364 821 704 850">• select on V_\$LOGMNR_LOGS</li> <li data-bbox="364 857 623 887">• select any transaction</li> <li data-bbox="364 894 758 904">• debug ON "SYS"."DBMS_LOGMNR"</li> </ul> </li> <li data-bbox="323 911 892 939">6. Replication Agent のインスタンスを再起動します。</li> </ol>

CR#	説明
702924	<p data-bbox="323 217 897 244"><b>テーブル変更 DDL コマンドが RepAgent で失敗する。</b></p> <p data-bbox="323 265 1180 482">Oracle 10g で、新しいカラムが <b>not null</b> およびデフォルト値のあるテーブルに追加されると、Oracle は、デフォルトのカラム値で既存のローを更新します。既存のローが更新されると、RepAgent は変更テーブル DDL を処理していないため、つまり、新しいカラムに追加するアーティクルを更新していないため、例外が表示されます。RepAgent には、これが通常のユーザ・テーブル更新なのか、DDL トランザクションによって生成される内部更新なのかを判断することができません。</p> <p data-bbox="323 493 1153 552"><b>対処方法:</b> <code>pdb_skip_op</code> コマンドを使用して、変更テーブルの DDL トランザクションにある内部更新 DML ログ・レコードを省略します。</p> <ol data-bbox="323 578 1166 1293" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="323 578 1166 1154">1. LRTRACE を on にして、Replication Agent エラー・ログで内部更新 DML ログ・レコードを検出します。例：  <pre data-bbox="360 644 1180 1154">T. 2012/03/25 20:27:12.293 LRTRACE com.sybase.ds.oracle.logmnr.OracleOperationPr Processing LogMiner Record &lt;OPID &lt;0x0000.00bab3a6.0000:0001.00000be3.000000bf.00f0&gt;, Timestamp &lt;2012-03-25 20:27:12.0&gt;, XID &lt;0x0004.002b.00000c39&gt;, Serial# &lt;7528&gt;, Session# &lt;133&gt;, Session Info &lt;login_username=QAMUSER client_info= OS_username=wliao Machine_name=rqavmrh1 OS_terminal= OS_process_id=31314 OS_program_name=dcoracle@rqavmrh1 (TNS V1-V3)&gt;, User Name &lt;QAMUSER&gt;, Object ID &lt;93318&gt;, REL_FILE# &lt;5&gt;, DATA_BLK# &lt;893&gt;, DATA_OBJD#&lt;93318&gt;, Operation &lt;UPDATE&gt;, Op Code &lt;3&gt; Rollback &lt;0&gt; SSN &lt;0&gt; CSF &lt;0&gt; SQL Redo &lt;update "QAMUSER"."QAM INT" set "FEE_SUB_MNEM_CD" = ' ' where "FEE_MNEM_CD" = 'SYB' and "FEE_TYP_DESC" = 'UNWIRED ENTERPRISE ' and "LST_UPDT_DTTI" = TO_TIMESTAMP('01/02/2009 00:00:00.000000000') and "LST_UPDI_USER_ID" IS NULL and "FEE_SUB_MNEM_CD" IS NULL;&gt; &gt;.</pre> </li> <li data-bbox="323 1164 1166 1258">2. その更新ログ・レコードの SCN、THREAD、および RBA を収集し、<b>pdb_skip_op</b> コマンドを使用して省略します。  <pre data-bbox="360 1234 840 1258">pdb_skip_op add, SCN, THREAD, RBA</pre> </li> <li data-bbox="323 1269 1166 1293">3. Replication Agent を再開します。</li> </ol>

CR#	説明
702837	<p><b>Oracle LogMiner の使用に切り替えたため、RMAN 以外のトランケーションを実行するように設定されていない限り、Replication Agent for Oracle (RA) には、アーカイブ・ログへの直接アクセスが不要になった。</b></p> <p>ただし、現在、RAO は <code>pdb_archive_path</code> 設定中にアーカイブ・ログが表示不可または読み取り不可かどうかをチェックし、エラーを表示します。このため、RAO をリモート・ホストから実行するよう設定することはできません。リモート・ホストのプラットフォームが、ソース・データベースのプラットフォームと同じである限り、リモート・ホストから RAO を実行する必要があります。</p> <p><b>対処方法:</b>Replication Agent およびプライマリ・データベースが同じホストにない場合、Replication Agent の <code>pdb_archive_path</code> パラメータを、リモート・ホストの実際のデータベース・アーカイブ・パスと一致する有効なローカル・ディレクトリに設定します。</p>
702654	<p><b>Replication Agent が、LTI フォーマット・エラーでアボートされる。</b></p> <p>Oracle LogMiner の制約された 10 進数の精度が原因で、Replication Agent は、ロケータ値の LTI フォーマット・エラーでアボートされます。</p> <p><b>対処方法:</b>なし。Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタに問い合わせてください。</p>
695407	<p>Oracle 10g リリース 2 で、LogMiner がディレクトリを使用して redo ログ・ファイルをスキャンする場合、これらのユーザーレベル SQL 操作は以下の V \$LOGMNR_CONTENTS ビューから欠落します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• LOB_TRIM</li> <li>• LOB_WRITE</li> <li>• SEL_LOB_LOCATOR</li> </ul> <p>これらの操作は、ロー外の XML データの更新に使用されるため、Replication Agent for Oracle はロー外の XML データで操作を使用するトランザクションのロールバックを複製できません。</p> <p><b>対処方法:</b>なし。</p>
693755	<p>プライマリ文字セットがマルチバイトまたはユニコードの場合、互換性のない複製 CLOB データが発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プライマリ・データベースとターゲット・データベースのエンディアンが異なります。</li> <li>• ターゲット・データベースの文字列は UTF-16BE ではありません。</li> </ul> <p><b>対処方法:</b>なし。</p>



CR#	説明
691433	<p><b>Oracle LogMiner は、timestamp カラムで小数秒をゼロ・クリアする。</b></p> <p>プライマリ Oracle バージョンが 10.2.0.4 またはそれ以前の場合、timestamp データ型カラムのミリ秒の部分の複製は失敗します。</p> <p><b>対処方法：</b>次のいずれかの方法を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle 10.2.0.5 または 11g にアップグレードします。これらのバージョンでは、この問題は解決されています。または</li> <li>• ご使用のプラットフォームおよび Oracle バージョンで使用可能な場合は、Oracle パッチ 4727401 を適用します。</li> </ul> <hr/> <p><b>注意：</b>ミリ秒の部分が失われるため、これらのテーブルの複製は Oracle 10.2 ではサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PARTITION BY HASH (timestamp_col) で作成されたテーブル。</li> <li>• プライマリ・キーまたはユニークなインデックスとしての timestamp カラムのあるテーブル。</li> </ul>
663726	<p><b>rasd_restore は、パラメータで実行されている場合、RepAgent インスタンスを停止しない。</b></p> <p><b>対処方法：</b>パラメータを指定せずに、<b>rasd_restore</b> を実行します。</p>
645980	<p><b>Exadata Hybrid Columnar Compression (EHCC) がサポートされていない。</b></p> <p>Replication Agent for Oracle は Exadata をサポートしていないため、columnar 圧縮データの複製をサポートしません。<b>compress for query</b> 句または <b>compress for archive</b> 句は EHCC データのみを対象としているため、Oracle テーブル定義で使用しないでください。</p> <p><b>対処方法：</b>なし。</p>
641011	<p><b>Oracle 11g で導入された DDL 文をフィルタできない。</b></p> <p><b>pdb_setreppeddl</b> は、Oracle 11g に導入されたこれらの DDL 文をフィルタしません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle 11.1 — <b>create flashback archive、alter flashback archive、drop flashback archive</b></li> <li>• Oracle 11.2 — <b>alter database link、create edition、drop edition</b></li> </ul> <p><b>対処方法：</b>なし。</p>

CR#	説明
630089	<p><b>Oracle 再同期化の制限事項。</b></p> <p>Replication Agent for Oracle では、「ウォーム・スタンバイ・アプリケーションのアクティブ・データベースとスタンバイ・データベースを再同期する」(『Replication Server 異機種間複写ガイド』)で説明されている再同期化シナリオはサポートしていません。</p> <p><b>対処方法：</b>なし。</p>
624026	<p><b>サブリメンタル・ロギングが有効にならない。</b></p> <p>Replication Agent for Oracle は、『Replication Agent Primary Database Guide』で指定されているサブリメンタル・ロギング要件が満たされている場合でもサブリメンタル・ロギングが有効にされないことを示すメッセージが表示され、初期化できない場合があります。これは、修正される前の無効なサブリメンタル・ロギングの設定が原因で Replication Agent の初期化がすでに失敗した場合に発生します。Replication Agent は、プライマリ・データベースとの起動後の最初の通信時にデータベースのサブリメンタル・ロギングの設定をキャッシュしますが、設定の変更後にこの設定は更新されません。</p> <p><b>対処方法：</b>プライマリ・データベースのサブリメンタル・ロギングを有効にしたら、Replication Agent を停止して、再起動します。</p>
619663	<p><b>RMAN ユーティリティのロケールが英語でない場合、RMAN によって削除されたアーカイブの正しい redo ログ・ファイル数が Replication Agent によって報告されない。</b></p> <p>Oracle Recovery Manager (RMAN) ユーティリティによってトランケートされたアーカイブの redo ログ・ファイルの削除数を計算する際、Replication Agent は単語 “Deleted” (削除済み) を検索します。言語モジュールが英語以外の言語の場合、Replication Agent は単語 “Deleted” を見つけることができないため、計算が失敗します。</p> <p><b>対処方法：</b>NLS_LANG Oracle 環境パラメータを american_america.zhs16gbk などのサポートされている英語文字セットに設定して、Oracle ソフトウェアのロケールの動作を指定します。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows の場合：set nls_lang=american_america.zhs16gbk</li> <li>• UNIX の場合：setenv NLS_LANG american_america.zhs16gbk</li> </ul>

CR#	説明
615023	<p>テーブルの所有者が指定されていない場合、複写定義が作成されない。</p> <p>プライマリ・データベースが Oracle で、Recycle Bin が有効な場合、<b>rs_create_repdef</b> は、テーブルの所有者が指定されないかぎり、マーク付けされたテーブルの複写定義を作成できません。</p> <p><b>対処方法</b>：<b>rs_create_repdef</b> 構文でテーブルの所有者を指定します。例：</p> <pre>rs_create_repdef qaxuser.qax_tab1</pre> <p>qaxuser はテーブルの所有者です。</p>
596320	<p>所有者情報が Oracle のファンクション複写定義でサポートされない。</p> <p>Replication Server では、Oracle のファンクション複写定義でストアド・プロシージャの所有者情報を指定することはサポートされない。このため、Replication Agent は Replication Server に情報を送信できません。所有者情報を使用できないため、複写ストアド・プロシージャは、Oracle スタンバイ・データベースで実行できません。</p> <p><b>対処方法</b>：アクティブ・データベースからスタンバイ・データベースに複写されるストアド・プロシージャごとに、対応するファンクション文字列を作成して、対象のストアド・プロシージャの所有者情報を指定します。</p> <p><b>rs_oracle_function_class</b> から継承されるスタンバイ・コネクションのファンクション文字列クラスを、カスタマイズされたファンクション文字列クラスに変更するには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>alter connection to dco2stb.ordb (standby connection) set function string class to my_oracle_function_class go</pre>
585513	<p>Oracle RAC 環境で独立性レベルが <b>serializable</b> に設定されている場合の初期化エラー。</p> <p>Oracle Real Application Clusters (RAC) 環境では、独立性レベルが <b>serializable</b> に設定されている場合、Replication Agent の初期化が失敗する場合があります。原因は内部 Oracle エラーです。</p> <p><b>対処方法</b>：Oracle Database 10g Release 2 用の Oracle Clusterware Release 2 (10.2.0.4) パッチをインストールするか、Oracle Database 11g Release 1 にアップグレードします。</p>
563912	<p>不適切な <b>lr_nnext_byte_order</b> コマンドのデフォルト値が出力に表示される。</p> <p><b>ra_config lr_nnext_byte_order</b> コマンド出力は、デフォルト値を big の代わりに "&lt;not_configured&gt;" と、不適切に表示します。</p> <p><b>対処方法</b>：このコマンドの適切な情報については、『Replication Agent リファレンス・マニュアル』を参照してください。</p>

CR#	説明
405207	<p><b>create table DDL の UDD オブジェクト・タイプに対するサポートは制限されている。</b></p> <p>UDD のオブジェクト・タイプがネストされている場合、UDO を含むテーブルの <b>create table DDL</b> コマンドの複写はサポートされません。</p> <p><b>対処方法</b>： Replication Agent を再初期化します。</p>
405206	<p><b>alter type DDL コマンドのサポートが制限される。</b></p> <p><b>alter type</b> コマンドの複写中、型の変更は型の参照先に反映されません。</p> <p><b>対処方法</b>： Replication Agent を再初期化します。</p>
397826	<p><b>プライマリ・キー・カラムの逐次更新の複写が失敗する。</b></p> <p>たとえば、次の更新は正しく複写されません。</p> <pre>update test_table set pkey = pkey + 1</pre> <p><b>対処方法</b>： プライマリ・キー・カラムを変更するか、より広範なユニーク・インデックスを追加します。</p>
	<p><b>Oracle 10.1 での Recyclebin の無効化。</b></p> <p>Oracle の Recyclebin の設定プロパティは、Oracle 10.2 までは存在せず、Oracle 11g から追加されました。Oracle 10.1 で Recycle Bin を無効にするには、次のコマンドを実行して、Oracle 非表示プロパティを設定します。</p> <pre>ALTER SYSTEM SET "_recyclebin"=FALSE SCOPE = BOTH;</pre>

## Microsoft SQL Server に関する既知の問題

Microsoft SQL Server に固有の Replication Agent に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 12 : Replication Agent for Microsoft SQL Server の問題

CR#	説明
709113	<p><b>dsi_alt_writetext は dcanv に設定されているデータベースの複写定義およびデータベース・サブスクリプションを使用できない。</b></p> <p><b>対処方法</b>: テーブルの複写定義とテーブル・サブスクリプションを使用します。</p>
707877	<p><b>RAM は、ロールバックの処理中に NoSuchElementException エラーのスキャンを停止する。</b></p> <p><b>対処方法</b>: なし。</p>

CR#	説明
707720	<p>RAM が仮想ファイルの終わりに到達し、次の仮想ファイルに移動する際、VirtualFileNotFoundException エラーでのスキャンを停止する。RAM が仮想ファイルの終わりに到達し、次の仮想ファイルに移動する際、VirtualFileNotFoundException エラーでのスキャンを停止する。</p> <p>対処方法:Replication Agent を再開します。</p>
707116	<p>image データを含んでいるローを複製できない。</p> <p>RAM は image カラムの複製中に LOB データの一部を損失するため、複製できないローがあります。</p> <p>対処方法:なし。</p>
701832	<p>物理マシンのライセンス機能設定が、Solaris 仮想マシンに認識されない。</p> <p>SySAM サブキャパシティ・ライセンスが SPARC Enterprise T-Series マシンで設定されると、このエラー・メッセージが報告されることがあります。</p> <pre data-bbox="323 699 1171 873">The SYBASE_SAM_CAPACITY licensing capacity setting is not intended for this system. This machine partition or virtual machine does not appear to be part of the machine from which the SYBASE_SAM_CAPACITY value was obtained.</pre> <p>対処方法：なし。この問題は、<b>sysamcap</b> ユーティリティの 2.2.0.9 版で修正されます。http://www.sybase.com/sysam Web サイトをチェックして、更新された <b>sysamcap</b> ユーティリティの情報を取得するか、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタに問い合わせてください。</p>

CR#	説明
623810	<p data-bbox="323 215 1170 279"><b>Microsoft SQL Server 2008 を開発者向けバージョンにアップグレードするときに、pdb_xlog init がエラーになる。</b></p> <p data-bbox="323 296 1170 456">SQL Server インスタンスを Microsoft SQL Server 2008 標準バージョンから開発者向けバージョンにアップグレードするときに、<b>pdb_xlog init</b> がエラーになります。これは Microsoft SQL Server の制限です。SQL Server のアップグレード時には “Agent XP” コンポーネントがオフに設定されます。このことが原因で、<b>pdb_xlog init</b> の正常な処理が妨げられます。</p> <p data-bbox="323 473 438 503"><b>対処方法：</b></p> <ol data-bbox="323 520 1170 612" style="list-style-type: none"><li data-bbox="323 520 1170 612">1. SQL Server Management Studio または SQLCMD を使用してこれらのスクリプトを実行し、SQL Server Agent の拡張ストアド・プロシージャを有効にします。</li></ol> <pre data-bbox="360 621 938 822">sp_configure 'show advanced options', 1; GO RECONFIGURE; GO sp_configure 'Agent XPs', 1; GO RECONFIGURE GO</pre> <ol data-bbox="323 835 1170 864" style="list-style-type: none"><li data-bbox="323 835 1170 864">2. <b>pdb_xlog init</b> を実行して、Replication Agent を再度初期化します。</li></ol>

CR#	説明
583437	<p><b>不適切な LTL が生成される。</b></p> <p>別のテーブルのカスケード外部キー・カラムによって参照されるテーブルのプライマリ・キー・カラムに影響を与える更新トランザクションのパーティション・スキーマで、不適切な LTL が生成される場合があります。たとえば、2つのテーブルが作成され、他のテーブルの外部キー・カラムによって参照されるプライマリ・キー・カラムが一方のテーブルに含まれているとします。この結果、最初のテーブルのプライマリ・キー・カラムのカスケードが次のように更新されます。</p> <pre>create table table1 (id int constraint PK_1 PRIMARY KEY CLUSTERED WITH FILLFACTOR=90 on myRangePS1(id), value1 varchar(8) null);</pre> <pre>create table table2 (id int constraint FK_1 FOREIGN KEY REFERENCES table1(id) ON UPDATE CASCADE, value1 varchar(8) null);</pre> <p>データは両方のテーブルに挿入されます。</p> <pre>insert into table1 values(3,'aaa'); insert into table2 values(3,'aaa');</pre> <p>続いて、最初のテーブルのプライマリ・キー・カラムが更新されます。</p> <pre>update table1 set id =4</pre> <p>最終的な更新トランザクションによって、次のようなログに記録されるコマンドが生成されます。</p> <pre>LOP_BEGIN_XACT NULL LOP_BEGIN_UPDATE NULL LOP_DELETE_ROWS dbo.table1.PK_1 LOP_INSERT_ROWS dbo.table1.PK_1 LOP_DELETE_ROWS dbo.table2 LOP_INSERT_ROWS dbo.table2 LOP_END_UPDATE NULL LOP_COMMIT_XACT NULL</pre> <p>このトランザクションについて生成された LTL では、削除オペレーションが更新オペレーションの一部として挿入オペレーションとグループ化されているかどうかを確認できません。その結果、Replication Server がサスペンドされます。</p> <p><b>対処方法:</b>レプリケート・データベースで外部キー制約を削除します。これによって、元の delete コマンドとカスケード delete コマンドの両方のコマンドがレプリケート・データベースに送信されるため、データ・ロスが防止されます。</p>

CR#	説明
569586	<p><b>サービス・パッチを適用するとエラーが発生する。</b></p> <p>SQL Server 2008 サービス・パッチを実行すると、Replication Agent のシステム・テーブル <code>sys.sp_SybSetLogforLOBCol</code> および <code>sys.sp_SybSetLogforReplTable</code> がリソース・データベースから削除され、エラー 29537 がトリガされます。</p> <p>MSP Error: 29537 SQL Server Setup has encountered the following problem: [Microsoft][SQL Native Client] [SQL Server]Could not find stored procedure 'sys.sp_SybSetLogforLOBCol'.. To continue, correct the problem, and then run SQL Server Setup again.</p> <p><b>対処方法：</b> サービス・パッチを適用する前に、次の手順を実行して、Replication Agent によって作成されたデータベース・トリガを無効にします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プライマリ・データベースにログインします。</li> <li>2. 自動マーク付けトリガが有効になっている場合は、無効にします。次に例を示します。  <pre>DISABLE TRIGGER ra_createtable_trig_ ON DATABASE</pre> <p><code>ra_createtable_trig_</code> は、Replication Agent によって作成された自動マーク付けトリガです。</p> </li> <li>3. データ定義言語 (DDL: Data Definition Language) トリガを無効にします。次に例を示します。  <pre>DISABLE TRIGGER ra_ddl_trig_ ON DATABASE</pre> <p><code>ra_ddl_trig_</code> は、Replication Agent によって作成された DDL トリガです。</p> </li> </ol>
493242	<p><b>Microsoft SQL Server 2008 ログ・エラーが原因で LTL 処理が妨げられる。</b></p> <p>Microsoft SQL Server 2008 のログイン・エラーが原因で、ロー外の記憶領域での <code>varchar (max)</code> または <code>varbinary (max)</code> の部分更新を正しく複写できません。この部分更新は LTL によって処理されません。</p> <p><b>対処方法：</b> なし。</p>



CR#	説明
490356	<p><b>UNIX プラットフォームのバージョン 15.0 を Windows プラットフォームでアップグレードすると、Replication Agent インスタンスが起動しない。</b></p> <p>Microsoft Windows 以外のプラットフォームから Microsoft Windows プラットフォームにマイグレートして、Replication Agent 15.0 インスタンスをバージョン 15.1 以降にアップグレードすると、インスタンスの起動時に次のエラーが発生する場合があります。</p> <p>Error setting logging directory for instance XXX because: &lt;Log directory &lt;YYY&gt; does not exist&gt;.</p> <p><b>対処方法：</b> Replication Agent インスタンスのアップグレード後、このインスタンスの設定ファイルを編集して、正しい Replication Agent インスタンスのログ・ディレクトリのパスを指すように log_directory パラメータの値を変更します。デフォルトでは、ログ・ディレクトリは Replication Agent インスタンス・ディレクトリの下にあります。</p> <p>次に例を示します。</p> <pre>log_directory=/opt/Sybase/RAX-15_0/myra/log</pre> <p>を次のように変更します。</p> <pre>log_directory=c¥:¥¥sybase¥¥RAX-15_5¥¥myra¥¥log</pre> <p><b>注意：</b> Microsoft Windows では、例に示すように二重の円記号 " ¥¥" を指定します。</p>

## IBM DB2 UDB に関する既知の問題

IBM DB2 Universal Database (UDB) に固有の Replication Agent に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 13 : Replication Agent for IBM DB2 UDB の問題

CR#	説明
707544	<p>プライマリ・データベースのマーク付けされているオブジェクトの定義の文字セットと <code>hl_character_case</code> プロパティの文字セットが一致しない場合、Replication Agent のエラーが発生する。</p> <p><b>対処方法:</b> <code>use_rssd</code> プロパティを true に設定します。</p>
702840	<p><code>ra_locator zero</code> の後の <code>resume</code> の Replication Agent for IBM DB2 UDB のシステム・メッセージは、トランケーション・ポイントがログの初めではなく、終わりに移動したことを示します。</p> <p><b>対処方法:</b> なし。</p>

CR#	説明
700501	<p><b>Replication Agent for UDB では、データベースのコネクティビティ用に IBM DB2 Universal Database JDBC ドライバの使用が推奨される。</b></p> <p><b>対処方法:</b> <code>pds_connection_type</code> の値を UDBJDBC に変更します。</p> <hr/> <p><b>注意:</b> 以前のリリースから 15.7.1 に更新すると、自動的にコネクシオン型が UDBJDBC に変更されます。</p>
700485	<p>16K の <code>lr_read_buffer_size</code> デフォルト値は小さすぎて、次のエラーにマップされる DB2 SQL エラー 2650 および理由コード 8 の原因になることが多い。バッファのサイズは、ログ・レコードを格納するには十分ではない。</p> <p><b>対処方法:</b> 読み込みバッファのサイズを最低 64K まで増やします。</p>
	<p><b>ライブラリ・パスに 2 つのコロンが含まれていると、エラーが発生する。</b></p> <p>HP では、<code>SHLIB_PATH</code> に 2 つのコロン (:) が含まれ、その間にディレクトリが存在しない場合、Replication Agent をレジュームしたときに、次のエラー・メッセージが表示されます。</p> <pre>java.lang.NoClassDefFoundError</pre> <p><b>対処方法:</b> <code>\$SYBASE/RAX-15_5/bin/ra.sh</code> スクリプトに行を追加して、UDB インスタンスの <code>db2profile</code> を実行します (<code>db2cshrc</code> の問題とは異なります)。たとえば、UDB インスタンス・ディレクトリが <code>"/home/db2inst1"</code> の場合、Replication Agent スクリプトを次のように編集して、<code>/home/db2inst1/sqlllib/db2profile</code> を追加します。</p> <pre>elif [ \$os = HP-UX ] then . /home/db2inst1/sqlllib/db2profile SRVR=-server SHLIB_PATH=\$ASA_LIB:\$RAX_DIR/lib/hpux:\$SHLIB_PATH export SHLIB_PATH</pre>

## Enterprise Connect Data Access に関する既知の問題

Enterprise Connect Data Access (ECDA) に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

CR#	説明
707675	<p><b>宣言されたイメージのサイズとイメージの実際のサイズが一致しない場合、<code>srv_get_text</code> で Open Server™ エラーの無限ループが発生する。</b></p> <p><b>対処方法:</b> なし。Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタに問い合わせてください。</p>

CR#	説明
703935	ECDA は dcany で Microsoft SQL イメージを挿入する際にハングする。 対処方法：ECDA 15.0.1 にアップグレードします。

## マニュアル情報と変更点

Replication Server Options でリリースされたマニュアルの更新情報、修正内容、変更点を確認してください。

### ECO のマニュアルの変更内容

ECO のリリース済みマニュアルの更新情報、修正内容、変更点を確認してください。

#### ECO のインストールおよび設定ガイド

「GUIモードでの ExpressConnect for Oracle のインストール」の「Oracle Instant Client ライブラリのインストール」にある「表 2. プラットフォーム別 Instant Client ライブラリ・パッケージ」の「Windows Server 2008、Windows Vista、または Windows 7 を実行している Windows x86-64 のダウンロード手順」への参照は、無効になりました。

下記が正しい情報です。

プラットフォーム	バージョン	パッケージ
Windows Server 2008 を実行する Windows x86-64 (64 ビット)、Windows Vista、または Windows 7	10.2.0.5	instantclient-basic-win64-10.2.0.5.zip

### ECDA のマニュアルの変更内容

ECDA のリリース済みマニュアルの更新情報、修正内容、変更点を確認してください。

ECDA マニュアルを使用するときの考慮事項

- ECDA が含まれる Sybase Data Integration Suite Replication は使用されなくなりしました。ECDA マニュアルの Sybase Data Integration Suite Replication に関する記載は無視してください。
- Replication Server Options 15.5 より、ECDA Option for Oracle は ExpressConnect for Oracle に置き換えられましたが、ECDA のマニュアルでは引き続き ECDA Option for Oracle と記述しています。ExpressConnect for Oracle の詳細については、『ExpressConnect for Oracle Installation and Configuration Guide』および『Replication Server Options Overview Guide』を参照してください。

## Microsoft SQL Server 2005

---

Microsoft SQL Server 2005 のサポートは終了しました。

以下のガイドでの Microsoft SQL Server 2005 に関する記述は無視してください。

- 『Replication Agent インストール・ガイド』
- 『Replication Agent プライマリ・データベース・ガイド』
- 『Replication Server Options クイック・スタート・ガイド』

## ExpressConnect for Oracle の配列処理要件

---

ExpressConnect for Oracle の配列処理が、テーブル・レベルの複写定義を持つテーブルにだけ適用されるようにする必要があります。

ExpressConnect for Oracle 接続内の配列処理によってパフォーマンスを向上させるには、テーブル・レベルの複写定義に含まれる情報が必要となります。

## 必須の Replication Agent パーミッション

---

Replication Agent for Oracle には、プロシージャ複写のマーク付けのために **create any procedure** パーミッションが必要です。

## Oracle オペレーションの LTL オリジンのコミット時刻の細分性

---

Oracle では、オリジンのコミット時刻の精度はミリ秒ではありません。

Replication Agent は Oracle の redo ログからオリジンのコミット時刻を取り出します。redo ログのタイムスタンプの細分性は、ミリ秒ではなく秒です。

## DDL 複写に関する Oracle の権限

---

DDL 複写を実行するために必要な Oracle 10g および 11g の権限を以下に示します。

**注意：** **GRANT ALL PRIVILEGES TO DDLUSER** を発行すると、DDL ユーザは、SYS や SYSTEM に似たスーパーユーザになります。

---

Oracle のバージョンが異なると、パーミッション要件も異なります。Oracle 10g および 11g では、DDL ユーザ・パーミッションが付与されると、次のコマンドを実行できます。

- ALTER ANY INDEX
- ALTER ANY INDEXTYPE
- ALTER ANY PROCEDURE
- ALTER ANY TABLE
- ALTER ANY TRIGGER
- ALTER ANY TYPE
- ALTER SESSION
- BECOME USER
- CREATE ANY INDEX
- CREATE ANY INDEXTYPE
- CREATE ANY PROCEDURE
- CREATE ANY SYNONYM
- CREATE ANY TABLE
- CREATE ANY TRIGGER
- CREATE ANY TYPE
- CREATE ANY VIEW
- CREATE INDEXTYPE
- CREATE MATERIALIZED VIEW
- CREATE PROCEDURE
- CREATE PUBLIC SYNONYM
- CREATE SYNONYM
- CREATE TABLE
- CREATE TRIGGER
- CREATE TYPE
- CREATE VIEW
- DELETE ANY TABLE
- DROP ANY INDEX
- DROP ANY INDEXTYPE

- DROP ANY MATERIALIZED VIEW
- DROP ANY PROCEDURE
- DROP ANY SYNONYM
- DROP ANY TABLE
- DROP ANY TRIGGER
- DROP ANY TYPE
- DROP ANY VIEW
- DROP PUBLIC SYNONYM
- INSERT ANY TABLE
- SELECT ANY TABLE
- UPDATE ANY TABLE

DDL ユーザのパーミッションが取り消されると、次のコマンドを実行できます。

- ALTER DATABASE
- ALTER ROLLBACK SEGMENT
- ALTER SYSTEM
- ALTER TABLESPACE
- ANALYZE ANY
- AUDIT ANY
- AUDIT SYSTEM
- CREATE DATABASE LINK
- CREATE ROLLBACK SEGMENT
- CREATE TABLESPACE
- DROP PUBLIC DATABASE LINK
- DROP ROLLBACK SEGMENT
- DROP TABLESPACE
- LOCK ANY TABLE

## Windows アーカイブの UNC パスおよびオンライン Redo ログのパス

---

Replication Agent for Oracle が Windows サービスとして実行中で、プライマリ Oracle データ・サーバが別のマシンにインストールされている場合、Microsoft Windows Universal Naming Convention (UNC) に従ってアーカイブおよびオンラインの redo ログのパスを次のように設定します。

```
¥¥oracle_server_machine¥oracle_log_path
```

*oracle\_server\_machine* はプライマリ Oracle データ・サーバが存在する場所で、*oracle\_log\_path* はアーカイブまたは redo ログ・ファイルです。たとえば、アーカ

イブ redo ログ・ファイルの場所を labratx64 という名前のマシンの oracle ディレクトリに設定する場合、次のように入力します。

```
1> ra_config pdb_archive_path, ¥¥labratx64¥oracle
2> go
```

## 追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、Sybase Product Manuals Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/Newsgroups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

---

**注意：**製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

---

## サポート・センタ

---

Sybase 製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

## Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

---

EBF と Maintenance レポートは、Sybase Web サイトからダウンロードしてください。

1. Web ブラウザで <http://www.sybase.com/support> を指定します。
2. メニュー・バーまたはスライド式メニューの [Support (サポート)] で [EBFs/Maintenance (EBF/メンテナンス)] を選択します。
3. ユーザ名とパスワードの入力が求められたら、MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
4. (オプション) [Display (表示)] ドロップダウン・リストからフィルタを指定し、期間を指定して、[Go (実行)] をクリックします。
5. 製品を選択します。

鍵のアイコンは、「Authorized Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[My Account (マイ・アカウント)] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。

6. EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

## Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

---

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、[http://www.sybase.com/detail\\_list?id=9784](http://www.sybase.com/detail_list?id=9784) にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> にアクセスします。



## MySybase プロファイルの作成

---

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

1. <http://www.sybase.com/mysybase> を開きます。
2. [Register Now (今すぐ登録)] をクリックします。

## アクセシビリティ機能

---

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザーがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

---

**注意：**アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合があります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

---

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、Sybase Accessibility サイト (<http://www.sybase.com/products/accessibility>) を参照してください。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

追加の説明や情報の入手